



会長
武藤 光 一

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会

潮 騷

第 53 号
令和 5 年
1 月 1 日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四・五
海事センタービル
電話 〇三・三三三・四〇六六二
FAX 〇三・三三三・四〇六八二

新年あけましておめでとうございます

皆さま方におかれましては、おすこやかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が猛威を振るい、感染者数は過去最高を記録しましたが、ウイルスの弱毒化、ワクチン接種と感染対策が功を奏し、行動制限も徐々に緩和され、日常生活や経済社会活動はコロナ禍前の水準に戻りつつあります。しかし、コロナ感染症は収束した訳ではありません。油断することなく、感染予防には細心の注意を払い、ご自愛ください。

当会の事業活動も影響を受け、昨年5月12日に開催を予定していた第50回戦没・殉職船員追悼式は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、残念ながら延期することといたしました。3年間追悼式が開催できませんでした。3月には安全・安心な追悼式が開催できるよう準備を進めているところです。

昨年の追悼式は中止となりましたが、終戦記念日には私をはじめ当会役員等少人数で献花式を行い、戦没・

殉職船員を慰霊・追悼いたしました。

第48回「戦時徴用船遭難の記録画展」は、新型コロナウイルス感染防止策を徹底した上で、7月9日から19日まで江戸川区立タワーホール船堀において開催いたしました。期間中に延べ1,000人以上の方々がお来場され、戦争の悲惨さ、不条理さ、平和の尊さを感じていただけたものと思います。

終戦から77年を迎え、先の戦争の体験と記憶の風化が危惧されている今、私たちは、二度とあのような戦争を繰り返さないためにも、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるための活動を継続して参ります。

今日、海運・水産業も大きく変貌し、船員を取り巻く諸環境も大きく変わりましたが、私たちが享受している平和と繁栄は、戦没・殉職船員の尊い犠牲の上に築かれたものであることを、私たちは決して忘れてはなりません。

当会は、先の大戦で戦禍に倒れ尊い犠牲となられた戦没船員と、戦後のわが国の復興を支えてきた海運・水産業のなかで不幸にして海難や労働災害にあわれ、殉職された船員への思いを絶やすことなく、慰霊・顕彰と、ご遺族の援護に一層の努力を続けてまいります。

皆さま方におかれましては、本年も旧年にならぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

終戦記念日献花式

終戦記念日献花式が令和4年8月15日（月）、猛暑の中、浦賀水道が目の前に広がる神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）で挙行され、武藤光一会長はじめ当会の役員、評議員、海事関係者ら40人が参列した。

慰霊碑に供花し黙とうを捧げ、戦没船員・殉職船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに海洋永遠の平和を誓った。

昨年もコロナの影響により、この終戦記念日献花式が当会主催の追悼行事となった。





タワーホール船堀（HPより）

「知られざる民間船舶の悲劇」 東京で開催 戦時徴用船遭難の記録画展

第48回「戦時徴用船遭難の記録画展」を、7月9日から7月19日まで、東京都江戸川区の「江戸川区立タワーホール船堀」で開催した。

新型コロナウイルス感染症の影響にもかかわらず、1,050人の方々が来場し、壮絶悲惨な戦没船と船員の記録画を熱心に見入っていた。

戦時徴用船遭難の記録画展は、新型コロナウイルス感染症の影響の中で開催となった。

展示室への入場に当っては発熱状況のチェック、マスクの着用、手指の消毒を徹底する等、感染防止対策を講じ入場者の安全確保に努めた。記録画展は、これまでと同様に貴

重な記録画を通して、ご遺族をはじめ多くの皆様に戦時徴用船乗組員の悲惨な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただくとともに、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、日本殉職船員顕彰会が全国を巡回して開催している。

先の大戦で兵隊や軍需物資、資源などの輸入物資を運ぶため民間の船と船員のすべては国の管理のもとに戦時徴用された。殆どの民間の商船は、丸腰（非武装）で満足な護衛もつかない海上輸送に従事し、敵潜水艦の魚雷の絶好の標的となつて、海運・水産で働く6万余人の船員が犠牲となるとともに、商船や機帆船、漁船等約7,200隻・880万総トンを超える船舶が失われた。

大阪商船の嘱託画家、大久保一郎画伯は、戦況の劣勢で社船が次々に撃沈されていた昭和17年（1942）、社長から「失われていく社船

を記録に残してほしい」と指示を受け、戦時統制下の厳しい状況の中、生還した船員たちから、沈没する船の様子、船員の遭難状況など戦場の生々しい証言を克明に聞きとって、忠実に記録画として密かに描き残した。

大久保画伯が描いた30号の記録画は、終戦直後のかん口令や復興の混乱の中で行方不明になっていたが、昭和57年（1982）に発見され、これを修復し37点の記録画を公開することとなり、昭和57年（1982）12月、東京日本橋の三越本店で第1回記録画展を開催した。

以来、北海道から沖縄まで、今回で31カ所・48回目、東京都では特別展を含め4回目の開催となった。

1,050人が来場

多くの来場者を迎えるため、顕彰会のホームページでの周知と海事関係団体の広報誌、業界紙などに開催案内を掲載していただくとともに、各行政機関、海事関係団体、マスコミ、美術・博物館や公民館、図書館などにポスターの掲示、リーフレットの配布依頼、江戸川区立中学校にはリーフレットを配布するなど、周知・広報活動を幅広く行った。

コロナ禍にもかかわらず、ご遺族の方々をはじめ近隣の一般市民や遠方からも、1,050人が来場した。

大久保一郎画伯（1889～1976）



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に、昭和31年（1956）67歳

明治22年 大阪市富島町（現在の西区川口）で生まれる。
大正15年 大阪商船（現株商船三井）の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。
昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。
昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。
昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

記録画から受けた感動・感想

来場者のうち84人の方々からアンケートとともに記録画から受けた感想が寄せられた。

その中から、来場の動機と感想の一部を紹介します。

10代の驚き

■男性（江戸川区）

ポスターを見て（会場）

このような、戦争の絵画展には初めて来たのでとてもよい勉強になりました。

大戦中にこんなにも多くの人々の命、船が失われたことにびっくりしました。

■女性（横浜市）

友人、知人、家族に聞いて

色々な本が置いてあったので分かりやすいと思いました。他にも、ビデオや船の説明が書いてあったのでとてもよく分かりました。地図が書いてあったのもいいなと思いました。絵の題名に「船尾」など、船のこと、船のつくりが書いてあったので分からない人も分かるし、しっかりと覚えられるので、勉強になりました。二度とこんなことが起こらないといいなとあらためて感じました。

■女性（江戸川区） 会場に来て

戦争の悲惨さや被害の大きさをこの展示会を通して知ることが出来ました。

戦争についての展示会を行うことで、戦争がもたらした被害を私たちがのような若者にも伝えていけるのだと思います。

またこのような展示会を開催していただけると嬉しいです。

■女性（千葉県） 会場に来て

戦争の絵を見て、火があがったり、少女を助けているところがいんしょうに、のこりました。

今、ウクライナとロシアが戦争し

ているので、これからどうしていくかなども考えるきっかけになったと思います。

これから戦争が起こらないでほしいと思います。

また、ウクライナ、ロシアが今、戦っているので早くおさまり平和な日常をとりもどせるように心から思います。

今回、はじめて見たのですがとてもいんしょうにのこり、戦争をすることはだめだと、よく感じました。

20代の学び

■男性（東京都八王子市）

ツイッター

学生の頃に艦船模型を趣味とするようになり、日本の艦隊を支えた輸送船舶にも興味を持つようになりました。

そうした中で、友人の祖父が乗っていた船を調べ、話を伺う機会があり、戦時徴用船について知りました。

今日この「知られざる民間船舶の悲劇 戦時徴用船遭難の記録画展」では、当事者しか描くことのできない作品を観ることができました。

これらの作品群の中でも、特に印象に残ったのは、「引火したドラム缶を海上投棄する乗組員」で、各持ち場ごとの役割をこなし、消火に当たっている緊迫感が伝わって来る生々しい画であることを感じました。

今回この展示を観ることができ、大変良かったと思います。



■男性（東京都町田市） ツイッター

祖父が当時、大阪商船の帝香丸という船で物資を運んでいた話を聞いておりました。当時ではケチャップの存在を知らず、飲み物だと思い仲間と、すっぱいと言いつつ飲んでいたそうです。太平洋戦争の末期になると米軍の攻撃が激しくなり、最後は山口県沖で船を失ったと聞いております。

今日の展示会で当時の風景を絵として見ることができ、先人たちが日本に物資を命がけで輸送していたと思うと心に響くものがありました。貴重な資料を見ることが出来て大変勉強になりました。



■男性（江戸川区） 会場に来て

戦時中の事を知れてよかった。
ひとつひとつの絵に物語があり興味深かった。案内をして頂いた方の話が面白かった。絵画の説明で使われている用語の説明があったので理解しやすかった。

■女性（江戸川区） 会場に来て

今回、通りがかった所、歴史的な展示会を行っており、興味があり入場した。中に入ると、田中善治さんがいろいろと絵画について詳しく教えてくださり、展示されている絵画は、大久保さんが遭難者から聞いて描いたものだとして、実際の目で見て描いたようであった。

歴史を色々と知れてよかった。現在20代だが、こうした歴史的、戦時

中の事は後世に残していきたいと思う。

■女性（江戸川区） 会場に来て

私が知らないだけで戦時徴用船のような戦時期に徴用されて亡くなった人達は多くいるのだなと思いました。

私達は戦時中の記録を一つでも多く後世に残すべきです。

30代の印象

■男性（江戸川区） 会場に来て

祖父が日本陸軍に所属し、中国やシベリヤでの話を聞いていました。が、海軍の戦いも、とても過酷で悲惨なんだと、本日改めて感じました。

■女性（江戸川区） 会場に来て

戦争のことが小学生の時と高校の修学旅行でしか知ることがなかったが、日本の海で昔こんなことがあったとは知らなかったのが驚いた。自分が思っていた戦争とは違っていた。

■女性（豊島区）

チラシを見て（自衛隊立川駐屯地）

理事長の半田さんから戦時中の様子や現在の日本の事情（海洋国家としての）も、沢山お話いただけで大変勉強になりました。ありがとうございます。

ございました。

油絵から当時の様子が良く伝わり、来て良かったと思いました。受付の皆さんも明るくて、質問しやすい雰囲気でした。

■女性（江戸川区） 会場に来て

戦争のことや戦争のDVDがとっても分かりやすかったです。また、機会があったらやってほしいです。

■男性（江戸川区） 会場に来て

先週まで九州旅行をして、長崎の原爆記念館に行ってきたばかりだったこと、祖父が海軍に召集されていたので、通りがかりに気になって立ち寄りました。

徴用船の存在は知っていたものの、詳しくは知らなかったもので、後日、図書館で書物を探してみたいと思います。力強い画でした。

もう少しゆっくりと見られるだけの時間が欲しく、それが心残りです。

40代の感想

■男性（江戸川区） 会場に来て

戦時徴用船については詳しく知らなかったが、多くの人が戦争に協力することで命を失っていったことに驚きました。戦争中で仕方ないこととはいえ、適切な扱いを受けていれば、ここまで多くの人が亡くならなくてすんだのだと思います。

■女性（江戸川区） 会場に来て

戦争を起こしてはいけないことを強く思った。

船長、船員の命を守る、船と共にの考えを初めて知り戦争は起こしてはならないと思った。

ガイドの方（元日本郵船の船長の方）より沢山のお話を聞けて船への大切さ、必要さを知ることが出来ました。

■女性（江戸川区） 会場に来て

心を打つものがありました。今の日本があるのは彼らのおかげであり日本人としての魂を繋いでいく義務と覚悟を与えていただきました。ありがとうございます。



■女性（東京都八王子市）

ポスターを見て（靖国神社）

思いがけず靖国神社に参拝へ向かったところ、展示の事を知り用事を済ませながら寄らせてもらいました。

相談員の方がいらっしやるとは思わず、色々知ることが出来感謝しています。

祖父の写真を一枚、顔写真しか見たことがありません。集合写真があるかどうか問い合わせてみたのですが無いようです。

当時の船での生活がどのようなものだったか、点々と基地を移動した理由などをお聞きしてみたいと思いました。時間が外になってしまいました。

戦没位置を詳しく教えていただきました。遺骨収集で、もしかしたら祖父が帰って来るかもしれないとわかり、あきらめていたので驚いています。フイリピンザンボンが沖と分かったのですが、またこのような機会があれば嬉しいです。

昭和19年のレイテ沖海戦、台湾沖航空戦についても調べてみたいです。船での出来事をもっと調べたいです。

■男性（江戸川区） 会場に来て

戦争の裏で起きていたことを知ることが出来て良かった。

大和などの戦艦ばかり取り上げら



ご遺族の高橋さん、ルビンさん、佐藤さん(右から)

れる中、輸送船で悲惨な事が起きていたことを理解することが出来た。

■女性 友人、知人、家族に聞いて

戦後50年を過ぎたところ、終戦記念日には「戦争の記憶の風化」という言葉を良く耳にした。戦争が終わり、77年目の今、およそ85パーセントの人が戦後生まれという。自分を含め、戦争を直に体験していない世代にとって戦争は、どこか違う世界の話のように感じる人もいるのではないだろうか。

ところが今年、ロシアのウクライナ侵攻のニュースを見ない日はない。インターネットの発達した現代

では、戦火のあまりにも生々しい映像と悲惨な人々の声が日々、アップデイトされる。断続的に続く爆撃で破壊された灰色の街。亡くなった赤ちゃんを抱く母親、家族を失い泣き叫ぶ人。とても異世界の他人事とは思えない。

戦争を体験した人には、生々しい記憶がある。この大久保画伯の絵を見るとそんな生々しい記憶が呼び起こされるように思う。こんな時期だからこそ、尚更この絵を見る意味があった。

軍人ではない船員、しかも多くが若者だった、が6万人も亡くなったと知りショックを受けた。展覧会場では、どの絵も描かれた人物の名前が分かっていると制服姿の元船長の田中さんが説明してくれた。皆どんな思いで、海へ沈んでいったのかを思うと本当に胸が痛い。

■女性 チラシを見て

戦時徴用船のことを初めて知り、貴重な作品等を見られ参考になりました。

50代の想い

■男性（茨城県） テレビを見て

以前にNHKのドキュメンタリー番組見て、近県で開催する場合、見たいと思ひ顕彰会のHPを見て、来場した。

■男性（杉並区） ポスターを見て（新宿平和記念資料館）

丸腰状態の戦時徴用船で、戦没された方々の補償はどうなっているのか。軍人ではないので軍人恩給の対象外。

この悲惨な事実を多くの方々に伝えたい。

■男性（江東区） ポスターを見て

何かと負のイメージ、過去を全て否定する昨今の風潮を変えたい。

戦争画、作戦記録画を国立の施設で全面公開するべき。同じく「戦時徴用船の最期」の作品も常設展示してほしい。

東京国立近代美術館、東京現代美術館等での常設展示を強く望む。



田中善治船長（右）とケルスカールさんご一家



■男性 ポスターを見て

DVD（太平洋シーレーン作戦）を見て、科学的根拠のない中で、戦争の決定をした人間が、何の責任もなく判断を下したことに驚いた。その人間は、その後そのことをどう思っただけで済んだのか。図々しさに怒りを覚えた。
無責任な資料を制作した人間の罪をもっと大きく暴くべきだと思う。

■女性（江戸川区）

チラシを見て（図書館）

今またウクライナで戦火のこの時期、終戦記念日の前の暑い夏に、悲惨な記録画の数々を見ることができ、大変貴重な機会をありがたうございました。東京では9年ぶりとのこと、もう少し短い期間（3年ぐらい）で開催していただければと思います。
絵画の保存の問題があるのでしょ

うが、全国津々浦々に皆さんの目に触れるよう巡回展を多く開催（年に2〜3回）していただきたいと思いました。

■男性（江戸川区） 会場に来て

生還船員からの証言をもとに描かれたと思えないほど、自分が目撃した事件を描いたような動きのある絵画の描写に驚きました。

■男性（埼玉県） ツイッター

首都圏開催の年はなるべく訪れたいと思っています。周辺国との緊張が高まり、右傾化する政治、蔓延する閉塞感など平和や安全が脅かされつつある昨今、このような取組が末永く行われることを希望します。
今回初めて白黒フィルムで残された絵を拝見しましたが、絵画とは違う迫力があり良いと思います。

■女性（江戸川区） 会場に来て

自分はまったく知らなかった。きちんと勉強して見て行きたかった。こういう機会にたくさん参加して勉強していきたいと思う。

■女性（江戸川区） 会場に来て

説明をして頂いたおかげで、感慨

深く絵を見ることができました。恥ずかしながら徴用船のことを存じ上げなかったもので、大変勉強になりました。
帰宅したら家族に勧めます。ありがとうございました。

帰宅したら家族に勧めます。ありがとうございました。

■女性（江戸川区） 会場に来て

まだまだ風化させてはならない戦争の事実と体験談を、迫力ある絵を通して感じ入りました。ありがとうございました。

60代の憤り

■男性（足立区） ポスターを見て

戦時徴用船が被害を受けたことは、日本郵船の資料館などを見て知っていたが、これだけ多くの被害や犠牲があったことは初めて知った。

■女性 チラシを見て

作品を見られて良かったです。民間の漁船も大変だったと聞いています。ありがとうございました。

■男性（江戸川区） 会場に来て

このような絵画があることをはじめて知りました。興味深く見ることでできました。

■女性（江戸川区） 会場に来て

貴重な作品を拝見しました。



■女性（江戸川区） 会場に来て

これほど多くの徴用船が犠牲になったことは知りませんでした。リアルな描画に圧倒されるとともに多大な犠牲に思いをはせざるを得ませんでした。

知らないことばかりでしたが、担当者の説明を受けたので良くわかりました。

私は、共産党や社会党とは思想がまったく違いますが、戦争は反対です。この作品を拝見することで、さらに気持ちが強くなりました。

亡くなった方々のご冥福をお祈りします。



■男性（千葉県） 会場に来て

今の時代のありがたさを感じます。この方たちの尽力の上に今の日本があるのだと思いました。今更ですがご冥福を、月並みなことしか書けず申し訳ございません。

■女性（江戸川区） 会場に来て

昔に起こった戦争の大変さを改めて思い、若い人たちにも伝える為にもとても参考になりました。

今、ウクライナを見て、そこにいる（戦争中も）人たちの思うと心が痛いです。

平和のありがたさを、もっと一人一人が日常において考えなければいけない事と思います。こうして伝え

る作業をしている方々に感謝です。

■女性（江戸川区） 会場に来て

色々、不安定なこの世の中で、色々と考えさせられる内容でした。本当に考えていかなければとつくづく思いました。戦争は反対ですが戦争が起きない土壌づくりが大切かと思えます。

■女性（豊島区）

顕彰会からの案内ハガキ

数年前にも一度拝見しましたが、改めて絵の素晴らしさ、素晴らしきがゆえの悲しさが心に迫ってきました。

伝えていくことの大切さをまた感じました。時代劇ではなく現実だということ忘れてはならないと、深く思いました。

70代の怒り

■男性（横浜市）

友人、知人、家族から聞いて

民間船が軍に徴用され、これほど沈められたことに悲しみを覚えます。

二度と戦争をしてはいけません。ロシアのウクライナ侵攻に見られるように国際情勢が大きく変化している中、国防を高める必要性を強く感じています。

自国は自国で守る、憲法改正を進めなければなりません。

■男性（江戸川区） 会場に来て

たくさんさんの船舶が徴用された事をこの記録画展で知りました。

戦争により、すべてがなくなってしまう。島国日本と船舶。亡くなった方々のご冥福を祈ります。

誰が何のために？ 誰の責任？

■男性（豊島区）チラシ（図書館で）

戦争で数多くの船がなくなっただけで、まったく知らなかったです！ 70代になっても今日まで知らなかったことは幸せでした。

いま、ここに生きているということとは、亡くなった方々のおかげですね。ありがとうございます。

ウクライナの戦争もお互いに歩み寄らなければ、何年も続き最後はすべてなくなりますので、日本もしっかり考え行動したいですね。

また、展覧会があったら見に行きます。

■男性（江戸川区） 会場に来て

私は敗戦後、昭和22年に生まれたので直接の経験はないが、しかも長野の山間部なので実感に乏しい。また、生まれてから現在まで戦争体験がない幸運な世代だと思う。

しかし、戦争の悲惨さなど十分想像できる。その敗戦の結果の憲法をもっと考え大切にしていかなければと思う。とにかく戦争では国はぜったい国民をまもらない。

■女性（江戸川区） 会場に来て

船舶用語が多かったけれど、説明されていたので理解できました。ひとつひとつの船に歴史と物語があることが伝わりました。現役時代に商船三井関連の会社にご縁があり「海の男」たちの人間的きずなが深いことを目にしてきたので懐かしい気もしました。

また、現在の世界はどこかで戦争があり、いつ日本もそうなるかわからないという不安も感じていて、リアルな感情もわきました。平和な世界になることを祈ります。

■男性（江東区）

友人、知人、家族に聞いて

すべての絵に躍動感があり、ダイナミックな印象でした。



■男性（江戸川区） スマホのネット

多くを語られることのない、太平洋戦禍。

もつと様々な世代に、多くの人たちに、とりわけ学校教育の中でも、しっかりと後世に伝えて行くべきであると思います。

単に悲劇としての話だけに止めず、当時の軍部の指導者、政治指導者の戦略、戦術的な認識の不足や「官尊民卑」の思想での無防備で民間人を戦場へ送るなど、沖縄戦でも見られるようなあり様は、断じて許されるものではない、と思います。

零戦の防備、軍船の居住性なども同じ。「人」を道具、消耗品のように扱う思想、これは、今のロシアのプーチンに同じか。



■男性

チラシを見て

これだけの絵が残っていたことにびっくりしました。日本の病院船にアメリカの戦闘機が攻撃している絵が、戦争の本質だと感じました。

■男性（埼玉県）

友人、知人、家族から聞いて

徴用船の絵を見て、絵のすばらしさ、説明のわかりやすさは悲惨の状況を受け止め、知らなかったことに刺激を受けました。感動しました。ありがとうございました。

■女性（江戸川区）

会場に来て

父が海軍だったのですが、あまり話は聞いていませんでした。火の海を泳いでいた時、船に助けられたというのを思い出し、身体が震えました。

■女性（江戸川区）

会場に来て

私の家族の中に兵隊に行つて、よく解からないけど何とかという島で死んだと、一番上の姉と母に聞いたことがあります。

戦争の事は、よくわからないけれどB29がよく飛んでいたそうなんです。私は青森県生まれで、1歳3カ月の時、終戦になったと聞いています。だから戦争はいやです。どんなに大変だったか？よくわかりませんが…。

とても良い絵とビデオありがとうございます。

ございました。

母は毎年、靖国神社お参りに行っていました。とてもいい勉強になりました。ありがとうございます。

■男性（文京区）

友人、知人、家族に聞いて

この絵画を通して、日本の置かれている現状をしっかりと認識して頂きたいと思っております。いつ日本が戦場と化すのか、背後に危機が迫っていることを日本人は全く気づいておりません。

また、危機は外部から攻められるだけでなく、大事な命、元総理・総裁をテロリストの手で亡き者にするという、日本人の内部の崩壊がもつと「おそろしい」のではないのでしょうか。

再びこの民間船舶のような悲劇を繰り返してはいけません。

■男性（江戸川区）

ポスターを見て（江戸川区郷土資料館）

開戦前、海上護衛を殆ど考えていなかった。昭和18年海上護衛総司令部を編成したが手遅れであった。大井篤参謀の証言。「海上護衛戦」

そもそも昭和16年夏、三つの研究機関が「日米開戦不可」と結果を出していたが、企画院が数字をいじってしまった。

本当に戦時徴用船の乗組員の方々は無念であったと思います。本年もまもなく終戦の日を迎えます。もつと語り継ぐべきです。そして漁船乗組員の方々ももつと伝えてください。





本年もお手伝いいただいた、田中善治船長

■女性（横浜市）チラシを見て

（朝日カルチャー横浜）

☆ウクライナへのロシアの侵略戦争をきっかけに、「戦争への備え」を軍事予算の増大、憲法改正による軍事化（専守防衛ではなく、専制攻撃への道）を、と国全体で傾き始めています。

しかし、メディア・政治家は「軍隊」のみを話題にし、「民間船舶徴用による参戦の現実」を、具体的に知らない状況を今回の展示で、改めて認識しました。「事実の歴史」を、私たち国民も冷静な資料やデータで知る必要は絶対だと思っています。

☆我が一族は、実家と配偶者一族も、明治以来の「海運関係者」が8割います。父方（飯野海運・西日本汽船・島津海運）は、九州宗像出身で、夫

方（日本郵船）は鎌倉出身です。☆戦時中、父（大正元年生まれ、83歳死去）は、上海事変直後に入隊し、徐州方面へ行きましたが、昭和18年より軍需省にて「輸送船舶の計画」に携わっていたようです。

叔父の起業した西日本汽船は、朝鮮に拠点を置き、幅広く（油槽タンカー、商船業務）展開していた、とのこと。戦後、業務停止の命令を受けましたが、朝鮮戦争勃発により、朝鮮の地を熟知していた会社だったので、米軍、国の協力依頼があり、復活し、今に至っています。現在、商船三井傘下となっています。

（戦争時（終戦時）小型船舶は軍事機密物質（軍用麻薬も）を運び続けたとか。また、当時、岸（元首相）等関東軍官僚と接触したことも（民間は置きざりにする）関東軍の官僚などの早期退帰指令もあったという。

☆「同僚だった半分以上は、船と共に死んだ」とも言っていました。また、親しかった、戦前の船長の話で「上海事変の直後、兵隊や軍事物質を運んだ際、上海の様子は悲惨でむごい現場だった。後々の報道の通りだった。」ということです。

☆夫の方の祖父「日本郵船」は副船長クラスの人で、やはり戦時中徴用され、かろうじて生還したとのこと。戦後退職して、過労の為50歳代で鎌倉由比ガ浜の自宅で亡くなりまし

た。今回の「海運徴用」については生きていれば沢山話がしたかった、かもしれません。

☆飯野海運にいた叔父はシンガポールで捕虜に。幸いなことに英・仏語がうまく、その縁で戦後、アメリカで活躍しました。

80代の嘆き

■女性（千葉県）

会場に来て

心に残る画でした。大変重みのある感じです。

ウクライナのことでも重なり、人間の強さや優しさ、さまざまなことを考えて、私の残り少ない日々を大切に生きようと思いました。先人のすばらしさ、大変さなどを深く思いま

■男性（江戸川区）

会場に来て

戦時中の話は、いろいろな局面がありますが、何れのテーマも当時の人の気持ちを思うと、大変切ない思いにかられます。

自分だったらどうしたか、身につきまされます。

■女性（江戸川区）

会場に来て

私は年に数回、靖国神社にお参りしております。英霊の皆様感謝と現在の日本のありように対して申し訳ありませんと…。

しかし、戦時徴用船のことは全く知りませんでした。国民全員が戦っ

たこと、知りえないことが沢山あることに気付きました。これからも生ある限り図書にて調べ、感謝しお参りしていきます。

■男性（江戸川区）

会場に来て

この知らなかった世界をみごとに絵として残してあることが素晴らしい。なくなってしまうものでも大変な時期を過ごしている時代、保存や、啓蒙を今後共がんばって下さい。

■女性（千葉県）

友人、知人、家族に聞いて

父も船員で戦死しました。姪が調べてくれ色々なことを知りました。母も何も知らなかったようで、もっと早く知っていたれば良かったと思っています。



東京海洋大学海事普及会の古川さん、江川さん

海の日清掃・献花式

横須賀海洋少年団
観音崎公園 戦没船員の碑



献花式、碑文石の前に整列

人で汗だくになりながら、「戦没船員の碑」周辺の草刈りなどの、清掃を行った。

猛烈な暑さと湿気の中、熱中症の危険があるので、指導員から「適切な水分補給を行い、熱中症にはくれぐれも注意すること。また、蜂などが出るかもしれないので、清掃中危険なことや何か気が付いたことがあったら、積極的に周りや声を掛け合い、情報を共有すること。」との指示のもとに、団員とガールスカウトの皆さんは、元気に清掃を開始した。



清掃を前に、あいさつする道家団長



例年のことだが、清掃を始めるとやはり気になるのが、「御成りの碑」付近のスロープ。滑り止めを施しているものの、木が生い茂り、木陰になっていてじめじめしているの、落ち葉がぐつしよりと湿り滑りやすくなっている。

追悼式に参列するお年寄りの皆さんが、転ばないようにと、念入りに清掃した。

「御成りの碑」「昭和天皇皇后両陛下行幸啓記念碑」の周りの舗装されていない場所は、海の日清掃の時期には雑草が勢いよく伸びている。

子供たちの安全性を考慮し、指導者、保護者の皆さんが、草刈り用の鎌を使って、きれいに草刈りを行った。





戦没・殉職船員の御霊の安らかならんことと平和を願い敬礼

「戦没船員の碑」がきれいになれば、この碑に眠る戦没船員、殉職船員の皆さんが喜んでくれると、思いを馳せながら猛暑の中、汗だくになつて約1時間あまり集中して清掃を終わらせた。

「戦没船員の碑」の周りが清められると「安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。

横須賀海洋少年団には、第1回追悼式からご支援・ご協力をいただいている。



**ご協力
ありがとうございました**

横須賀海洋少年団の「海の日」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとうございます」と声高らかにお礼を述べていました。ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。

日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本船主協会・大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水先人会連合会・日本水路協会・日本倉庫協会・海技教育財団・全日本海員組合・全日本海員福祉センター・日本船員厚生協会（順不同）



殉職船員

遺族援護について

当会では外航船・内航船・旅客船・港湾船等の船員として就労中、海難など職務上の事故により死亡した船員のお子さんにに対し給付金を支給しています。

船員が死亡した日に、船員の収入により生計を維持していたゼロ歳児から高等学校卒業までのお子さんが対象となります。

詳細については、当会事務局までお問い合わせください。
(電話 03-3234-0662)

ご遺族からのお便り

殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介します。

■織田幸恵さん（広島県）

お世話になっております。有瑠、もうすぐ15歳の誕生日を迎えます。思春期にどっぷりはまり、荒波の日もあつたけれど、パパ似の優しさも見せています。元気に大きくなってくれて、感謝です。

■佐藤亜希さん（青森県）

先日、小学校で宿泊学習があり初めて離れて一日すごしました。帰ってきた息子が少し成長してみえました。これからの成長が楽しみです。いつもありがとうございます。

皆様のご厚情に感謝申し上げます

令和3年11月1日以降、令和4年10月31日までの間に、次の方々に新たに協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

新たな協賛会員

角元 利彦様 (徳島県徳島市)
平川 正隆様 (神奈川県横浜市)

一般寄付金

岡田 律子様 (神奈川県横浜市)
鮫島 庸一様 (静岡県掛川市)
富田 隆滋様 (大阪府池田市)
田子 のぶ子様 (長野県上田市)
猪股 貞雄様 (東京都清瀬市)
田口 ウメ子様 (神奈川県大和市)
堀江 耕太朗様 (神奈川県横浜市)
長澤 芙美子様 (群馬県前橋市)
米山 隆昭様 (東京都北区)
荒谷 秀治様 (神奈川県横浜市)
小野寺 功一様 (宮城県気仙沼市)

追悼式献花料

井上 稔子様 (兵庫県姫路市)
水野 孝子様 (新潟県新潟市)
栗田 達雄様 (東京都港区)
後藤 美津子様 (神奈川県横浜市)
今田 小夜子様 (埼玉県川口市)
西本 久美子様 (埼玉県越谷市)
守田 忠様 (宮城県名取市)
津田 芳子様 (兵庫県揖保郡)
山藤 浩子様 (広島県広島市)
横須賀市東部漁業協同組合様 (神奈川県横須賀市)

終戦記念日供花料

荒川 博様 (東京都三鷹市)
多胡 明美様 (東京都小金井市)

知られざる民間船舶の悲劇 戦時徴用船遭難の記録画展

寄付金

堀江 耕太朗様 (神奈川県横浜市)
重田 育輝様 (大阪府羽曳野市)
奥平 安子様 (東京都中央区)
新井 基一様 (神奈川県横浜市)
岩田 次郎様 (東京都西東京市)
久野 重幸様 (東京都足立区)
小泉 友佑様 (東京都武蔵野市)
國安 航様 (栃木県那須塩原市)
川田 レイ子様 (兵庫県西脇市)
全海 窓様 (埼玉県新座市)

遺族援護寄付金料

坂田 茂樹様 (兵庫県神戸市)
加賀城 福男様 (香川県仲多度郡)
関 洋一郎様 (福岡県福岡市)
中村 順子様 (千葉県船橋市)
藤井 栄子様 (埼玉県上尾市)
長澤 芙美子様 (群馬県前橋市)
明星 圭介様 (神奈川県横浜市)

知られざる民間船舶の悲劇

大久保一郎画伯遺作

第49回

戦時徴用船遭難の記録画展

会期

令和5年8月29日①から9月10日②まで
・開館時間は、10時00分から18時00分まで
・初日の8月29日①は、13時00分開場
・最終日の9月10日②は16時00分に閉場

会場

りゅうとぴあ4階 ギャラリー

(新潟市民芸術文化会館)

主催

新潟市中央区一番堀通町3番地2(白山公園内)
公益財団法人 日本殉職船員顕彰会

新潟市で開催

りゅうとぴあ(新潟市民芸術文化会館)

8/29~9/10

入場無料



魚雷攻撃により棒立ちとなって沈没する「ぶら志る丸」

*新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について
政府・新潟県のガイドラインに沿って対策を行います。
ご協力をお願いします。